

平成30年度 事業報告書

平成30年4月 1日から

平成31年3月31日まで

学校法人博陵学園

1. 法人の概要

名称 学校法人 博陵学園（昭和42年7月14日法人設立）

代表者 理事長 安芸 志穂子

住所 豊中市新千里西町2丁目23番2号

電話 06-6872-0210

FAX 06-6872-5993

設置する学校

住所 豊中市新千里西町2丁目23番2号

名称 みくま幼稚園

役員

理事 6名

監事 2名

評議員 13名

理事会 2回開催

評議員会 2回開催

職員 36名

2. 事業の概要

（ みくま幼稚園 ）

＜教育方針＞

たくましいからだとゆたかなこころ

＜教育内容＞

子どもの生活体験を育み友人関係を基盤とした集団生活の中で、健康な体づくりと豊かな心の体験を培う保育内容の展開と実践

＜園児数＞

	3歳児		4歳児		5歳児		クラス数計	園児数計
	クラス数	園児数	クラス数	園児数	クラス数	園児数		
定員	4	100	4	140	4	140	12	380
29年度	4	112	4	115	4	110	12	337
30年度	4	100	4	114	4	116	12	330
31年度	4	80	4	95	4	115	12	290

＜保育時間＞

月～金曜日 午前9時～午後2時

土曜日 休園

＜納付金＞

保育料 3歳児 年額312,000円（12分割均等納付）

4・5歳児 年額276,000円（12分割均等納付）

給食費 週3回 月額 4,320円

バス維持費 月額 3,000円

＜入園時の費用＞

入園料	3歳児	70,000円
	4・5歳児	60,000円
	4・5歳児	60,000円

＜預り保育の時間及び費用＞

月～金曜日 午後5時30分まで

夏冬春休み中の預り保育は午前11時30分～午後5時

＜行事实施状況＞

入園式、遠足、運動会、保育参観、クラス懇談会、ふれあい動物園、音楽会、表現活動発表会、マラソン大会、卒園式、カレーパーティー、お団子作り、梅ジュース作り、畑作り、プール（水遊び）

＜施設関係＞

園地総面積 3,821.5㎡ 運動場 2,660㎡

園庭遊具の保守・点検を実施した。

＜設備関係＞

印刷機、園児用下足箱13台等を取得、指導計画管理システム導入。

＜長期計画＞

平成26年及び平成37年に園舎を建替えるため、平成15年度から第2号基本金を設定し毎年計画的に資金を積んでいるが、本年も計画通り実施。期末残高は、140,000千円となった。

＜事業報告＞

平成30年度の事業は、前年度より園児数が7名減少したものの、保護者の協力を得て役職員の真摯な努力により、着実に運営することができた。

平成27年度4月より子ども子育て支援新制度がスタートしたが、新制度移行が進み、平成31年度は213園が私学助成で事業を継続する予定である。当園は、私学助成を継続している。

第198回国会において「子ども・子育て支援法の一部を改正する法律」が提出され、5月10日成立した。10月より幼児教育の無償化が実施される。詳細は、法案成立から準備期間が短い、豊中市の説明会を待たなければならない。無償化が実施されると、保護者の選択幅が広まり「教育内容」と「預かり保育の時間」にスポットが当たり、当園としても、一層の努力を払うこととする。

一方、教職員採用が極めて厳しい状況になっているので、安定した教員組織を維持することができる園が、持続可能な園であり、運営の最大のテーマになってきている。

また、政府は、平成29年に「2020年までに有給休暇の取得率を70%とする。」の数値目標に掲げたが、目標からほど遠い結果、平成31年4月労働基準法改正により「全ての企業において、年10日以上有給休暇が付与される労働者に対して、有給休暇の日数のうち年5日については、使用者が時季を指定して取得させることが必要になった。」正職員はもとより、パートタイマー・契約職員の実働時間

の確保が新たな問題として浮上してきている。

更に、経団連と大学とで、新卒一括採用以外の方式として、2022年度より多様な採用形態に、通年採用の実施が合意された。現在でもインターンシップが採用のツールになってきているのが、一層進むことになる。

また、養成校においては、自ら生き残りを図りながら如何に学生を確保するかが大きな課題になっているが、単独での頑張りには限界があるので、幼稚園・認定こども園・保育園が共同で教育・保育のやりがいと楽しさを盛り上げていく必要がある。「有給インターンシップ」、その前にアルバイトとして園の日常の営みを実際に体験してもらうことを通じて採用を考えていく方法を検討する。

以上のことを踏まえ、当園としては、幼児教育の無償化へ理解を深め、事業継続を踏るため、地域の乳幼児数及び教職員採用計画を思考し、5年後の事業、中期事業計画を作成する。また、監督官庁の調査に、しっかりと対応出来るよう、事務組織を見直し、事務管理体制の確立に努める。

自己評価については、確実に実施し公表している。また、その自己評価の内容を、学校関係者評価委員会で検討し内容を別紙のとおりまとめた。内容を精査・検討し新年度の評価項目を策定することとした。

財務面では、事業活動収支計算書より、教育活動収入計が194,461千円（対前年比▲7.90%、211,144千円）、教育活動支出計209,641千円（対前年比▲0.03%、209,703千円）、教育活動収支差額▲15,179千円（前年度、1,440千円）、経常収支差額比率▲6.80%（前年度0.74%）と厳しい経営改善になった。

また、人件費比率（人件費／教育活動収入計＋教育活動外収入計）は、66.61%（前年度60.85%）となり、前年度より上昇した。翌年度繰越支払資金は、当年度の保持すべき資金（第4号基本金）の額を相当上回る額の支払資金を保持できているので、資金繰りは問題ない。

新年度、園児数は前年度より40名減少するので、慎重な運営を心掛ける。

また、当年度の卒園児は115名であるので、100名の園児確保を目指す。

3. 財務状況

別紙参照。

平成31年度 事業計画書

平成31年4月 1日から

平成32年3月31日まで

学校法人博陵学園

1. 法人の概要

名称 学校法人 博陵学園（昭和42年7月14日法人設立）

代表者 理事長 安芸 志穂子

住所 豊中市新千里西町2丁目23番2号

電話 06-6872-0210

FAX 06-6872-5993

設置する学校

住所 豊中市新千里西町2丁目23番2号

名称 みくま幼稚園

役員

理事 6名 監事 2名

評議員 13名

理事会 2回開催 評議員会 2回開催

職員 34名

2. 事業の概要

（ みくま幼稚園 ）

＜教育方針＞

たくましいからだとゆたかなこころ

＜教育内容＞

子どもの生活体験を育み友人関係を基盤とした集団生活の中で、健康な体づくりと豊かな心の体験を培う保育内容の展開と実践

＜園児数＞

	3歳児		4歳児		5歳児		クラス数計	園児数計
	クラス数	園児数	クラス数	園児数	クラス数	園児数		
定員	4	100	4	140	4	140	12	380
29年度	4	112	4	115	4	110	12	337
30年度	4	100	4	114	4	116	12	330
31年度	4	84	4	100	4	115	12	299

＜保育時間＞

月～金曜日 午前9時～午後2時

土曜日 休園

＜納付金＞

保育料 3歳児 年額312,000円（12分割均等納付）

4・5歳児 年額276,000円（12分割均等納付）

給食費 週3回 月額 4,320円

バス維持費 月額 3,000円

〈入園時の費用〉

入園料	3歳児	70,000円
	4・5歳児	60,000円

〈預り保育の時間及び費用〉

月～金曜日 午後5時30分まで

夏冬春休み中の預り保育は午前11時30分～午後5時

〈行事実施状況〉

入園式、遠足、運動会、保育参観、クラス懇談会、ふれあい動物園、音楽会、表現活動発表会、マラソン大会、卒園式、カレーパーティー、お団子作り、梅ジュース作り、畑作り、プール（水遊び）

〈施設関係〉

園地総面積 3,821.5㎡ 運動場 2,660㎡

修繕費予算を12,000千円計上した。

〈設備関係〉

〈長期計画〉

平成26年及び平成37年に園舎を建替えるため、平成15年度から第2号基本金を設定し毎年計画的に資金を積んでいるが、本年も計画通り実施。

〈計画内容〉

平成27年度4月より子ども子育て支援新制度がスタートしたが、移行が進み、平成31年度は213園が私学助成で事業を継続している。当園は、私学助成を継続している。

そのような状況下、新年度の園児数は、前年度より40名減少の12学級290名のスタートとなる。

新年度は、幼児教育の無償化が実施されるので、保護者の園を選ぶ判断が一層「教育内容の充実」にスポットが当たり、預かり保育の時間の延長を希望することが想定される。

一方、教職員採用が極めて厳しい状況になっているので、安定した教員組織を維持することができる園が、持続可能な園であり、運営の最大のテーマになってきている。新卒の採用については、短大の減少が進み、4年制大学の養成校からの採用が中心となり、就職希望の3年生が対象となってきている。故に、一般企業と同じ土俵での採用競争となっている。また、保護者対応、増加傾向にある特別支援児への対応、クラス担任として自信が持てないと考える応募者が多く、募集をしても少数の応募となってしまっている。様々な対策（募集時期の前倒し、教育実習の積極的な受け入れ等）を可能な限り取り組んではいるが、その効果が上がっていない。インターンシップも有効な対策ではあるが、アルバイトとして園の日常の営みを実際に体験してもらうことを通じて採用を考えていく方法も検討している。

園児の将来像の調査では、女の子の多くは、幼稚園の教諭を志向しているのに、大学進学時にまでその気持ちを持続することが出来なくなっている。国を挙げて、幼稚園教諭の楽しさ、やりがい等仕事への夢を掻き立てるような取り組みを着実に進

めていくよう幼稚園連盟を通じて全日へ働きかけていきたい。

事業活動収支予算書では、教育活動収支は、園児が減少したので教育活動収入計が184,704千円（前年度200,849千円）、修繕費が嵩み教育活動支出計が227,799千円（前年度194,790千円）と教育活動収支差額43,095千円（前年度6,059千円プラス）のマイナス、教育活動外収支差額100千円のプラスとなり、経常収支差額は42,955千円のマイナス、経常収支差額比率23.25%のマイナスと、厳しい経営状況となる。

また、平成32年度の園児募集については、80名の園児確保を目指す。

《収支予算》

別紙のとおり

幼稚園部門

4. 財務状況

学校法人 博陵学園

資金収支計算書

(単位:円)

科 目	平成30年度
学生生徒等納付金収入	103,534,650
手数料収入	402,000
寄付金収入	137,500
補助金収入	60,892,410
資産売却収入	0
付随事業・収益事業収入	26,492,690
受取利息・配当金収入	1,835,757
雑収入	3,002,645
借入金等収入	0
前受金収入	7,489,000
その他の収入	21,774,881
資金収入調整勘定	△ 10,004,450
前年度繰越支払資金	234,074,675
収入の部合計	449,631,758
人件費支出	130,757,354
教育研究経費支出	37,585,630
管理経費支出	30,260,642
借入金等利息支出	0
借入金等返済支出	0
施設関係支出	0
設備関係支出	4,050,400
資産運用支出	148,385,221
その他の支出	24,545,704
資金支出調整勘定	△ 3,375,330
次年度繰越支払資金	77,422,137
支出の部合計	449,631,758

事業活動収支計算書

(単位:円)

科 目	平成30年度
学生生徒等納付金	103,534,650
手数料	402,000
寄付金	137,500
経常費等補助金	60,892,410
付随事業収入	26,492,690
雑収入	3,002,645
教育活動収入計	194,461,895
人件費	130,757,354
教育研究経費	48,191,397
管理経費	30,692,844
徴収不能額等	0
教育活動支出計	209,641,595
教育活動収支差額	△ 15,179,700
受取利息・配当金	1,835,757
その他の教育活動外収入	0
教育外活動収入計	1,835,757
借入金等利息	0
その他の教育活動外支出	0
教育外活動支出計	0
教育活動外収支差額	1,835,757
経常収支差額	△ 13,343,943
資産売却差額	0
その他の特別収入	0
特別収入計	0
資産処分差額	0
その他の特別支出	0
特別支出計	0
特別収支差額	0
基本金組入前当年度収支差額	△ 13,343,943
基本金組入額合計	△ 14,050,400
当年度収支差額	△ 27,394,343
前年度繰越収支差額	270,298,618
基本金取崩	0
翌年度繰越収支差額	242,904,275
(参考)	
事業活動収入計	196,297,652
事業活動支出計	209,641,595

貸借対照表

(単位:円)

資 産 の 部	
科 目	平成30年度
固定資産	793,225,730
流動資産	78,541,587
資産の部合計	871,767,317
負 債 の 部	
科 目	平成30年度
固定負債	0
流動負債	13,742,476
負債の部合計	13,742,476
純 資 産 の 部	
科 目	平成30年度
基本金	615,120,566
繰越収支差額	242,904,275
純資産の部合計	858,024,841
負債及び純資産の部合計	871,767,317

財産目録

(単位:円)

1. 資産総額	871,767,317
Ⅰ 固定資産	793,225,730
Ⅱ 流動資産	78,541,587
2. 負債総額	13,742,476
Ⅰ 固定負債	0
Ⅱ 流動負債	13,742,476
3. 正味財産	858,024,841

監 査 報 告 書


2019 年 3 月 31 日

学校法人 博陵学園

理事会・評議員会 御中

学校法人 博陵学園

監 事

岩本式弘 

監 事

戸谷朋子 

私たちは、学校法人博陵学園の監事として、私立学校法第37条第3項及び寄附行為第16条に基づいて同学園の平成30年度（平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）における業務及び財産の状況について、理事会その他重要会議に出席するほか、理事長から学校運営の報告を聴取し、重要書類を閲覧し、会計監査人から報告説明を受け、事業報告書及び計算書類等を調査いたしました。

監査の結果、私たちは、同学園の業務及び財産の状況に関して不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実は認められませんでした。

また、財務に関する計算書類は学校法人会計基準に準拠しており、学校法人博陵学園の平成31年3月31日現在の財務状態及び同日をもって終了する会計年度の経営状況を適正に表示しているものと認めます。

（注）監事岩本式弘及び監事戸谷朋子とも私立学校法第38条第5項に定める外部監事であります。

2018年度 重点目標への取り組み

- (1) 子ども達一人一人をよく見て必要なサポートをする
- (2) 子育てへの支援
- (3) 教員の資質向上

2019年度への課題となる要素

- ・専門分野からのアドバイザーの充実
 - ・年間カリキュラムの実施と子ども達の実態をよく見ての丁寧な見直し
 - ・家庭や子育てへの相談事業の専任担当者の設置
 - ・保育環境、職場環境の充実
-
- ・専門分野からのアドバイザーの充実→(1)(2)(3)
言語聴覚士、作業療法士、臨床心理士など様々な専門職に現場に年間を通じて足を運んでもらい、保育へのアドバイスや提案をもらうことができた。
担任への助言、保護者への助言、幼稚園への助言をもらうことができた
 - ・年間カリキュラムの実施と子ども達の実態をよく見ての丁寧な見直し→(1)(3)
地震、台風、災害級の猛暑など、大きな災害が続く年でもあり、歴代の保育者が子どもと友に作り上げてきたカリキュラムやノウハウは大きな財産であるとあらためて実感できた年度であった。一人一人の子ども達の姿、健康状態や発育、発達の状態をよくみることで、保育の根幹をなしていることが職員で共感できたことは大きな実りであった。
 - ・家庭や子育てへの相談事業の専任担当者の設置→(1)(2)(3)
子育て相談室があることを在園児にプリントを配布して知らせ、相談内容に応じて、担当職員と外部講師を招いての相談を年間を通じて実施した。卒園生とその保護者への相談支援の場を充実させていくことが今後の目標である。
 - ・保育環境、職場環境の充実
大型改修工事として、予定通り2018年度に空調整備に取り組んだ。高圧電流を使用するため、長期間にわたる大工事であったが、大きな災害がつづいたため復旧の期間もあり、年度内に工事を終えることができなかった。2019年4月

中には終了の予定である。

また、今後園庭の大型遊具の大規模改修など大きな工事が計画的に実施されていくことを鑑み、資金運営と専門機関との方針の検討など、長期的な展望が求められる。

次年度への課題

重点目標への取り組み

- (1) 子ども達一人一人をよく見て必要なサポートをする
- (2) 子育てへの支援
- (3) 教員の資質向上

2019年度への課題となる要素

- ・専門分野からのアドバイザーとの連携
- ・年間カリキュラムの実施と子ども一人一人をよくみるための担任支援
- ・保育環境、職場環境の充実
- ・教員の資質向上にむけての職場作り